

活動レポート

青年技術士交流委員会

文責：青年技術士交流委員会副委員長 小澤正志

学生へ技術士の魅力を伝える「学校へ行こう！」

■実施概要

開催日時：H26.10.31(金)12:40～14:10

講義内容：技術士とは・制度・役割等の説明

各業界における技術士の仕事内容と役割
(15分講演×2篇、5分講演×2篇)

受講生：北海学園大学工学部社会環境工学科

3年生51名、4年生5名、山本准教授

参加者：宮下謙次(講師・幹事)、高田賢一(講師)、
滝澤嘉史(講師・幹事)、森山崇(講師・幹事)、
永井委員長、仁田副委員長、木本幹事長、
源野幹事、平岡幹事、小澤副委員長

■はじめに

平成20年度から始まった「学校へ行こう！」ですが、今年も北海学園大学にお邪魔してきました。学園大での開催は今年で7回目となりますが、これまでより更に濃密な内容で実施しました。

事前に聴き取りした学園大側の希望を勘案し、「建設コンサルタント、ゼネコン、行政それぞれの業界における技術者・技術士の役割」、「会社の中での業務遂行における技術士の役割等の視点での紹介」を重点に、15分プレゼン2名に加えて、新たに5分プレゼン2名を設けました。



写真-1 熱心に聞き入る学生たち

■技術士とは？

はじめに、今回の司会役である学園大OBの源野技術士が全体進行の説明を行い、その後、小澤技術士が「技術士と技術士の仕事」と題して、技術士とはどのような資格で、どのように取得でき、業界(建設コンサルタント、ゼネコン、行政)でどのような役割を担っているかについての講演を行いました。

■橋梁メーカーと“橋のお医者さん”

1番手、橋梁メーカーから建設コンサルタントへ転職した経歴をもつ宮下技術士が、「DOBOKUの世界をみてみよう！」と題して、橋梁メーカーと建設コンサルタント(橋梁診断)の違い、“橋のお医者さん”=技術士としての業務の取り組み方等についての講演を行いました。これから社会人になる皆さんへ、「技術士」=理想の自分への第一歩、ということについて、熱のこもった講演となりました。



写真-2 真剣な表情の宮下技術士

■道路設計技術者の仕事と技術士の関わり

続いて、学園大OBで道路設計の業務などに携わる高田技術士が、「建設コンサルタントのお仕事」と題して、道路設計と学校での授業の関わり、道路設計と技術士の関わり、各種建設コンサルタントの特徴と技術の役割についての講演を行いました。

建設コンサルタントを目指す学生の方へ、大学で学ぶ基礎の部分が、どのように仕事に役立っているかを、学園大 OB の視点で丁寧に説明されました。



写真-3 熱弁する高田技術士

■ゼネコンの仕事と技術士としての工法改善

さらに、学園大 OB でゼネコンに勤務する滝澤技術士が、「工法改善による得られる効果」と題して、ゼネコンの仕事の紹介、構造物の施工方法、技術士としての工法改善についての講演を行いました。

施工上の技術的問題点と課題を整理して伝えることで、技術士の提案(解決策)により得られる効果(成果)を非常に分かりやすく講演されました。



写真-4 ゼネコン業を PR する滝澤技術士

■公務員技術者の技術士取得の必要性について

最後に、北海道開発局の森山技術士が、「国土交通省の仕事と技術士について」と題して、道路事業における調査・計画から工事完成までの一般的な流れを例として、行政と民間企業の役割分担、公務員技術者が技術士を取得する必要性などについての講演を行いました。自らの技術士取得までの道のり、取得後に感じたことなどについても話され、学生の関心を引き付けておりました。



写真-5 やや緊張気味の森山技術士

■講演を終えて

学校へ行こうでは、学生からの質問コーナーを設けておりますが、講師のみならず参加した青技交幹事からの回答もあり、大いに盛り上がりました。また、学生へのアンケートでも、好意的な意見が多数寄せられました。

技術士の魅力を伝えることを目的として開催した学校へ行こうですが、講演を終えた4名の講師からは、引き受けて本当に良かったとの感想を頂きました(中には、来年も講師をしたいとの声も)。学校へ行こうについては、今後も更なるレベルアップを図り、全道各地の大学や高専等で積極的に開催していきたいと考えております。



写真-6 学生からの質問に答える仁田技術士

「学校へ行こう！」の講師を募集

青年技術士交流委員会では、大学生や高等専門学校生へ、技術士の仕事の魅力を伝えてくださる講師を募集しております。

自薦他薦は問いませんので、ご興味をお持ちの方は、お近くの青年技術士交流委員会幹事までご一報頂けますようお願い致します。